

1. 発現する効果の評価指標

- (1) 地域公共交通の利用者数増加
- (2) なとりん号の収支改善
- (3) 市北西部の移動を支える広域幹線の維持
- (4) 来訪者数の増加

効果	指標名	考え方	成果指標		※参考 R4	計画期間					進捗状況及び今後の取組方針について (令和5年度中の取組状況)
						R5	R6	R7	R8	R9	
(1)	なとりん号の利用者数(人/年) (デマンド交通利用者数も含む)	・令和4年度末見込みから年1%の利用者増を見込む	基準値 (R3)	40.5万人/年	41.7 万人/年						
			目標値 (R9)	46.0万人/年							
(2)	なとりん号の収支率(%) (デマンド交通利用者数も含む)	・現状の幹線路線の収支率は再編後も維持 ・現状の生活路線は平均の収支率を14%台に改善(現状7.4%、おおむね2倍)	基準値 (R3)	32.4%	32.9%						
			目標値 (R9)	35.0%							
(4)	観光入込客数(人/年)	・コロナ禍以前の観光入込客数を上回る回復を狙う	基準値 (R3)	127.9 万人/年	145.6 万人/年						
			目標値 (R9)	136.0 万人/年							
(4)	なとりん号 閑上線利用者数 (人/日)	・観光入込客数の伸びと同程度の増加を見込む	基準値 (R3)	115人/日	122人/日						
			目標値 (R9)	122人/日							

## 2. 施策毎の評価指標

事業	指標名	考え方	成果指標		※参考 R4	計画期間					進捗状況及び今後の取組方針について (令和5年度中の取組状況)	
						R5	R6	R7	R8	R9		
1-1	公共交通による人口カバー率	・鉄道駅800m圏とバス停留所300m圏、デマンド交通の乗降ポイント300m圏の人口が総人口に占める割合 ・デマンド交通により市域全体をカバー	基準値 (R3)	87.4%	87.4%							令和5年10月より、AIデマンド交通「なとりんくる」を市内全域を運行範囲として導入。自宅まで迎えに行くため、公共交通空白地の解消が図られた。なお、「なとりんくる」の運行時間帯は午前9時から午後4時までとしているが、利用者からは運行時間を拡大してほしいという声が寄せられている。今後の運行体系については、タクシー事業者との調整を行い、利用者拡大に努める。
			目標値 (R9)	100%								
1-1 1-2 2-1 5-1	なとりん号利用者数 (デマンド交通利用者数も含む)	・路線再編後も現状のなとりん号利用者が継続して利用できる環境を維持 ・現状でなとりん号を利用できない市民がデマンド交通等を利用 ・鉄道との接続改善により利用者数が増加	基準値 (R3)	40.5万人/年	41.7 万人/年							令和6年度からの新たな交通体系の本格運行に向け、令和5年10月より、これまでの幹線路線については運行体系を見直し、生活路線の代替としてAIデマンド交通「なとりんくる」を導入した。 新たな「なとりん号・なとりんくる」をPRするため、市内教育機関との連携により市内大型商業施設での「なとりん号・なとりんくる運行開始記念イベント」(約300人参加)や、なとりん号祭りで車両展示等を行った。今後も多くの方に利用してもらえるよう、周知・PRを継続していく。
			目標値 (R9)	46.0万人/年								
1-1	なとりん号収支率 (デマンド交通利用者数も含む)	・路線再編により収支率の低い現状の生活路線の収益改善 ・鉄道との接続改善により利用者数が増加	基準値 (R3)	32.4%	32.9%							
			目標値 (R9)	35.0%								
2-1	名取駅前・名取駅西口(平日)	・なとりん号と鉄道の主要な交通結節点である名取駅の2ヶ所の停留所の乗降客数を設定 ・なとりん号の利用者数と同程度に増加と想定 ・令和3年度の乗降客数の計測値がないため、令和2年度値を採用	基準値 (R2)	964人/日	未計測							運行体系見直し後の「なとりん号」におけるバス路線について、名取駅を中心に各地区を結ぶ交通ルートを設定している。今後も鉄道ダイヤとの接続改善等、鉄道と路線バスのシームレスな移動を実現するため、運行ダイヤの見直しなどを検討する。
			目標値 (R9)	1,100人/日								
2-2	バス停の整備件数	・5ヶ年の間でバス停を整備に向けて調整	基準値 (R3)	0件	0件							令和5年度は、モビリティ・ポートの整備には至っていないが、今後も整備する場所の検討も含め、費用対効果を踏まえながら調査・研究を進める。なお、令和6年度において、名取駅改札出口へのデジタルサイネージの設置を予定しており、その中でバス時刻表を映せるかどうか検討している。
			目標値 (R9)	1件								
2-3	対象駐車場の利用件数	・取組推進により利用件数が増加	基準値 (R3)	41台/年	42台/年							パークアンドライド、サイクルアンドライドを推進するため、環境整備と周知に取組む。
			目標値 (R9)	70台/年								
3-1	事業者意見交換会の実施回数	・MaaSの実装に向けた検討機会を創出	基準値 (R3)	0回	0回/年							令和5年10月より、公共交通分野におけるデジタル技術の活用による利便性向上として、①バスロケーションシステム②ODデータ取得、③AIデマンドシステム、④キャッシュレスを導入した。 今後も、公共交通利用者の利便性向上やシームレスな移動の実現に向け、他の交通事業者等との意見交換を行い、MaaSの実装に向け検討を進める。
			目標値 (R9)	2回/年								
4-1	観光と連携したツアーの企画件数	・5ヶ年の計画期間のうち、1年目で調査・検討、2年目以降に年1件のペースでツアーを企画、実施	基準値 (R3)	0件	0件/年							公共交通と観光を組合せたツアーの造成について、観光と公共交通で相乗効果が現れる仕掛けづくりの企画・実施に向けて検討を行う。
			目標値 (R9)	4件								
4-1 4-2	名取市内の観光入込客数	・各種取組によりコロナ禍以前の観光入込客数を上回る回復を狙う	基準値 (R3)	127.9万人/年	145.6 万人/年							新型コロナウイルス感染症が5類移行した影響もあり、観光客数が回復している。公共交通を利用して観光する仕掛けづくりを検討する。
			目標値 (R9)	136.0万人/年								
4-2	なとりん号 閑上線利用者数	・観光入込客数の伸びと同程度に増加と想定	基準値 (R3)	115人/日	122人/日							令和4年7月より、閑上線を「アクアイグニス仙台」まで土日祝日限定で延伸を行った。令和5年10月の運行体系見直しに伴い、バス停は廃止したが、AIデマンド交通「なとりんくる」の指定乗降場所として設定している。また、閑上線を仙台空港まで延伸しており、観光需要も取込んだ路線として位置付けた。
			目標値 (R9)	122人/日								

事業	指標名	考え方	成果指標		※参考 R4	計画期間					進捗状況及び今後の取組方針について (令和5年度中の取組状況)
						R5	R6	R7	R8	R9	
5-2	移動需要を喚起する取組件数	・毎年2件の取組を実施し、移動需要を喚起	基準値 (R3)	0件/年	0件/年						令和6年2月に「かわまちてらす閑上」で開催された「かわまち夜市復活祭」に合わせ、なとりん号「閑上線」の臨時便を運行した。
			目標値 (R9)	2件/年							
5-3	本協議会等を通じた意見交換回数	・毎年2回の協議会等で周辺自治体と意見交換を実施	基準値 (R3)	0回/年	0件/年						令和5年度、具体的な取組の実施には至っていないが、今後も公共交通による観光周遊の仕掛けづくり等、周辺自治体との連携に努める。
			目標値 (R9)	2回/年							
6-1	取組団体との意見交換回数	・毎年2回の協議会等で周辺自治体と意見交換を実施	基準値 (R3)	0回/年	0回/年						現時点で、本市山手団地で2団体が自助・共助による移動支援に取組んでいることを承知している。現時点で、公共交通として活用する考えはないが、今後の動向を注視する。
			目標値 (R9)	2回/年							
6-1	他都市事例の調査・研究件数	・各年1件の調査や視察等で他都市事例を研究	基準値 (R3)	0件	0件						
			目標値 (R9)	5件							
7-1	検討に向けた意見交換回数	・貨客混載の可能性に関して、毎年意見交換を実施して模索	基準値 (R3)	0回	0回						令和6年2月に宮城農業高等学校との連携により、公共交通を活用した農産物の産直イベントを開催。その際に「なとりん号」高館線での車内販売を実施した。 公共交通の収益確保や新たな価値の付加につながる取組であるため、本市での導入可能性について引き続き、調査・研究に努める。
			目標値 (R9)	5回							
8-1	学校モビリティ・マネジメント実施回数	・毎年度3回(小学校2学年・中学校1学年)でモビリティ・マネジメントを実施と想定	基準値 (R3)	0件	0件/年						令和5年度、各小中学校に赴いての活動に至っていないが、公共交通について興味・関心を持ってもらえるような働きかけに努める。
			目標値 (R9)	3件/年							
8-2	住民モビリティ・マネジメント実施回数	・コミュニケーションアンケート等を年2回(2セット)実施を目指す	基準値 (R3)	0件/年	0件/年						令和5年度は、なとりん号の運行体系見直しに関する住民説明会を市内全公民館(11地区)で開催したほか、市の職員が講師となって説明を行う「マナビ講師派遣事業」や町内会からの要請により「なとりん号・なとりんくる」の説明を個別に実施した。さらには、DX推進室が行う「スマホ教室」において、「なとりんくる」予約アプリのレクチャーを行っており、今後も、公共交通の利用促進の働きかけを継続する。
			目標値 (R9)	2件/年							
8-3	エコ通勤認証事業者数	・毎年1件のエコ通勤事業所の認証を目指す	基準値 (R3)	0件	0件						今年度、名取市職員による公共交通通勤チャレンジデーを実施し、その成果・課題分析を行った、分析結果について、今後のモビリティ・マネジメントの際に活用する。
			目標値 (R9)	5件							
9-1	他都市事例の調査・研究件数	・各年1件の調査や視察等で他都市事例を研究	基準値 (R3)	0件	0件						高齢者・障がい者・妊産婦の方でも自由に移動できるよう、令和5年10月より、バス路線「なとりん号」は全15台をノンステップバスとしたほか、AIデマンド交通「なとりんくる」についても、1台を車いす対応車両としている。 また、自動運転については、実装に至るまでのハードルが高いことから、現時点での活用は難しいと考えているが、将来的に自動運転の技術を公共交通等に生かしていくことを目指し、調査研究を進める。
			目標値 (R9)	5件							